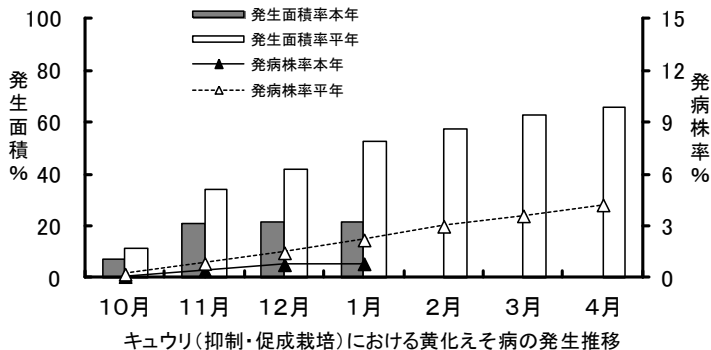


平成27年2月4日

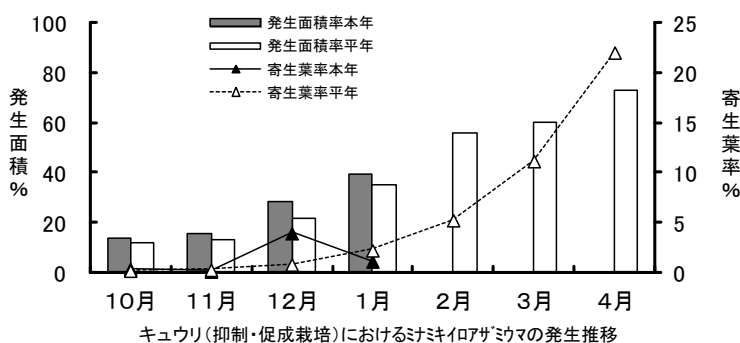
高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)
野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量:少

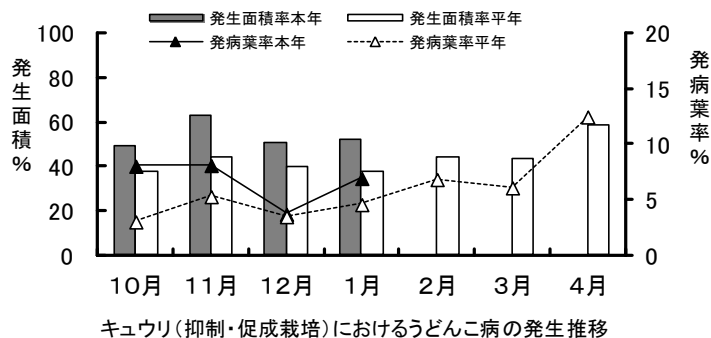


ミナミキイロアザミウマ 発生量:平年並

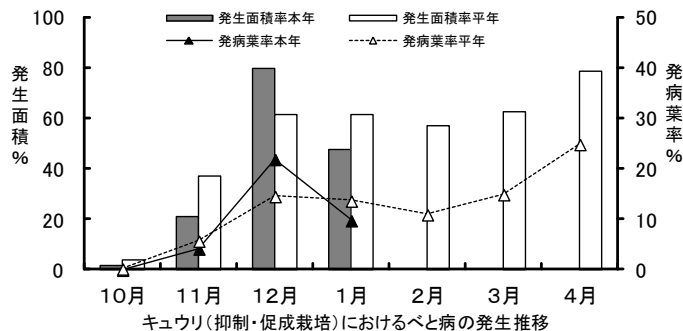


黄化えそ病の発生は各地区とも少発生でした。媒介虫のミナミキイロアザミウマは県中央部、西部で平年並の発生、中西部では少発生で、全体的には平年並の発生でした。発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫の防除も徹底してください。キュウリ生長点部に寄生するミナミキイロアザミウマは発見が困難で、薬剤もかかりにくく、密度が高くなると防除が難しくなることから、初期防除を心がけてください。

うどんこ病 発生量:平年並

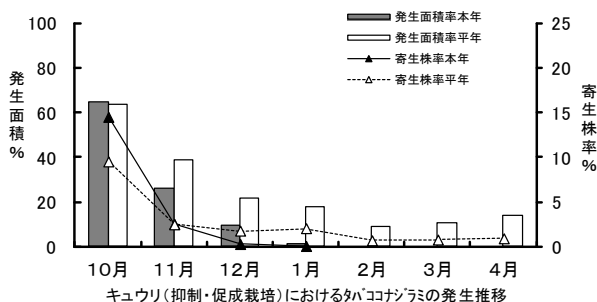


べと病 発生量:やや少

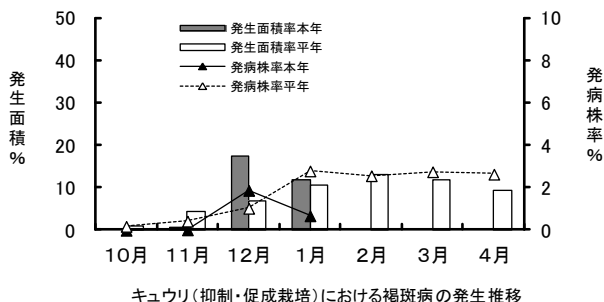


うどんこ病は県中央部、西部でやや多発生、中西部ではやや少発生となっています。べと病は県中央部で平年並の発生、中西部、西部ではやや少～少発生となっています。向こう1ヶ月の気象予報では、降水量はやや少なく、気温は低めと予想されているため、うどんこ病の増加に注意してください。うどんこ病、べと病ともに蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

タバコナジラミ 発生量:少



褐斑病 発生量:平年並



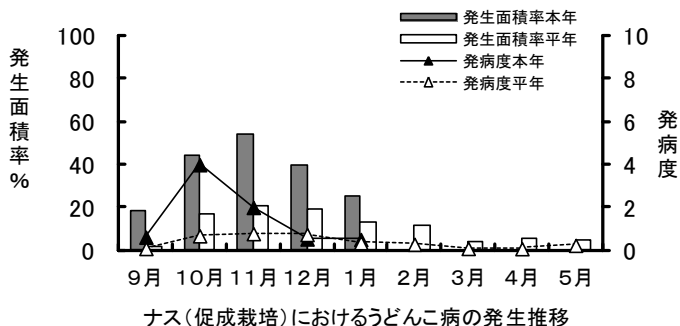
県西部で平年並、中央部と中西部では少発生となっています。気温の低下とともに発生量は減少しますが、薬剤散布回数の少ない場合は春先に急激な増加が見られる場合があるので注意してください。

発生面積は県中西部ではやや多発生ですが、中央部と西部ではやや少～少発生で、発生程度は先月に比べ各地区とも低くなっています。しかし、向こう1ヶ月の気象予報は発生に好適な条件ですので、発生の増加に注意してください。

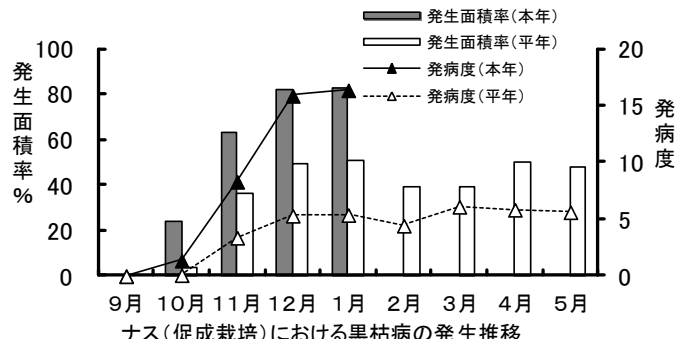
高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)
野菜類ダイジェスト版

● 促成ナス(東部・中央部・西部)

うどんこ病 発生量:多



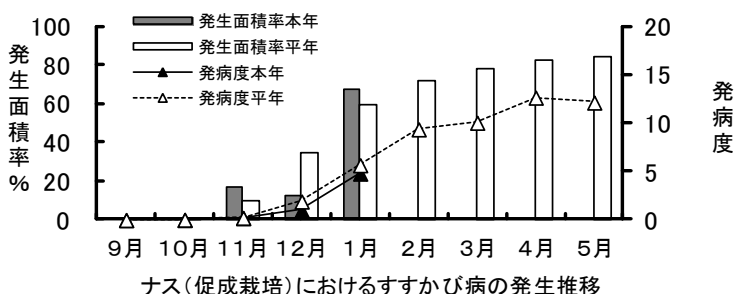
黒枯病 発生量:やや多



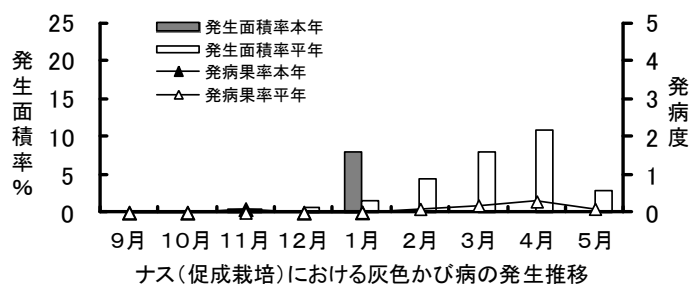
発生面積は県東部と中央部で多発生となっています。しかし、発生程度は低めで、下葉に散見される程度の発生がほとんどです。今後も大幅な発生の増加はないと思いますが、温湿度管理、草勢管理を適正に行い、発病を認めた場合には初期から薬剤防除を行いましょう。

県中央部で多発生、東部はやや多、西部は平年並の発生でした。先月に引き続き、発生面積・程度とも高く推移しており、気象予報は発生を抑制する条件ですが、今後とも注意が必要です。定期的予防散布に努め、発病の初期を見逃さないように注意しましょう。

すすかび病 発生量:平年並

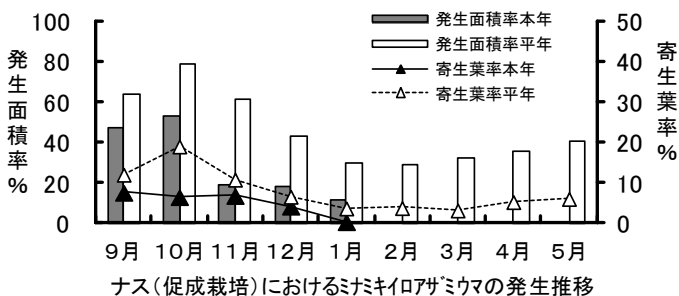


灰色かび病 発生量:多

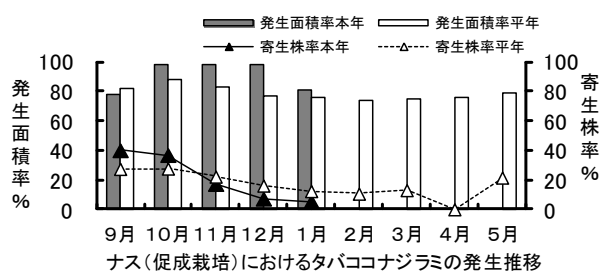


すすかび病は、県中央部と西部でやや多発生、中央部では平年並の発生となり、先月から増加しています。灰色かび病は今月から発生が見られ始め、県東部では発生面積が多発生となっています。向こう1ヶ月の気象予報は、発生が助長される条件ではありませんが、定期的予防散布に努め、発病の初期を見逃さないように注意しましょう。

ミナキイロアザミウマ 発生量:少



タバコナジラミ 発生量:平年並



天敵の定着・増加により、県全体にやや少～少発生となっています。特に天敵導入ハウスでは、天敵の定着・増加と気温の低下により、引き続き少発生のまま推移すると思いますが、密度が高くなった場合は、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除が必要になります。

県全体に発生面積は平年並程度ですが、発生程度は低く、成虫がわずかに見られる程度です。今後大幅な密度の上昇は見られないと思いますが、発生状況をよく観察し、初期防除に努めてください。

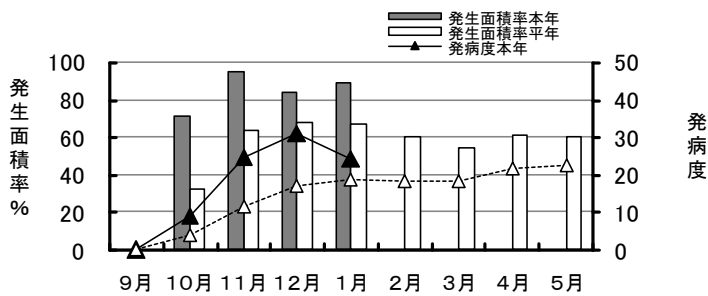
高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)

野菜類ダイジェスト版

平成27年2月4日

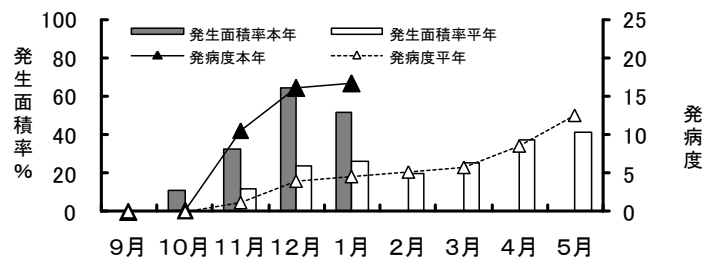
● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

うどんこ病 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

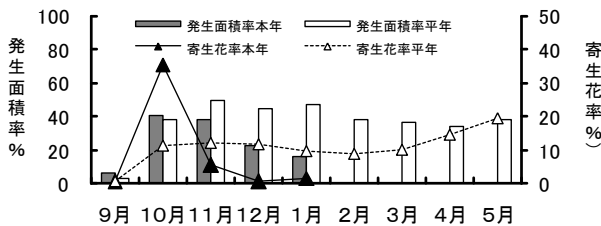
斑点病 発生量: 多



ピーマン・シトウ(促成栽培)における斑点病の発生推移

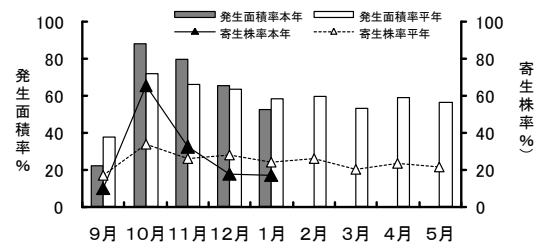
うどんこ病は東部と中央部では平年並、中西部ではやや多の発生面積となっています。また中央部では発生程度が高くなっています。一方、斑点病は東部では平年並、中西部ではやや多発生ですが、中央部では多発生となっています。また各地区とも発生程度は高くなっています。向こう1ヶ月の気象予報では、降水量はやや少なく、気温はやや低めと予想されていることから、特にうどんこ病の発生が助長されると考えられます。両病害とも蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量: 少



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

タバココナジラミ 発生量: 平年並

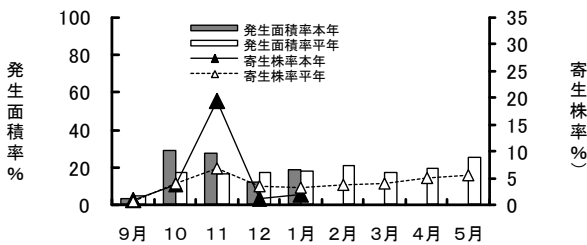


ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

各地区、少～平年並みと発生面積にはばらつきがあるものの、発生程度は全般に低くなっています。天敵の定着が良い場合には、春まで問題とならない程度で推移すると思われます。薬剤散布を行う場合には、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

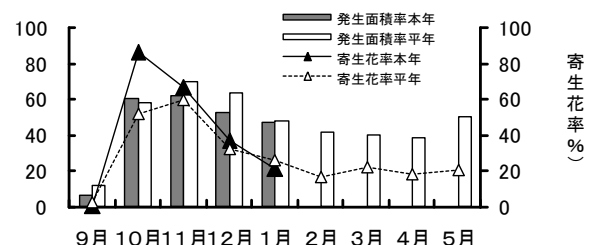
中西部では少、東部と中央部では平年並みの発生となっています。スワルスキーカブリダニの定着状況にもよりますが、コナジラミの成虫のみが見られる場合には、特に問題とはならず、天敵のエサとなっている程度だと考えられます。

アブラムシ類 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

ヒラズハナアザミウマ 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

アブラムシ類は中西部で発生が多くなっていますが、全般的には平年並の発生となっています。初期から発生の多かったハウスでは、虫媒伝染性のウイルス病の発生に注意してください。ヒラズハナアザミウマは各地区とも平年並からやや少の発生面積となっています。厳寒期に天敵の頭数が減り、日差しの強くなる春先に急に害虫が増加する場合がありますので、注意してください。薬剤を散布する場合は各種天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

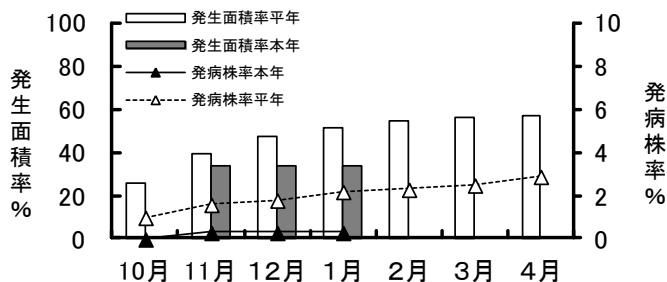
高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)

野菜類ダイジェスト版

平成27年2月4日

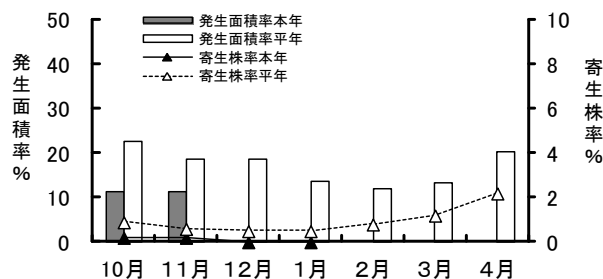
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: やや少



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

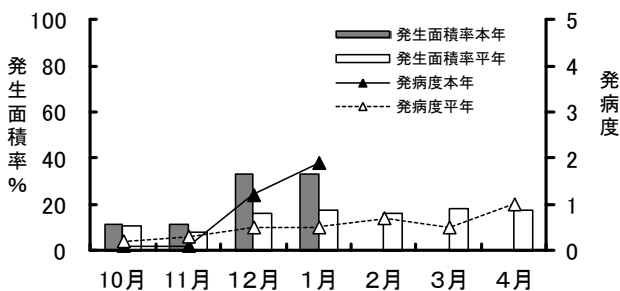
タバコナジラミ 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるタバコナジラミの発生推移

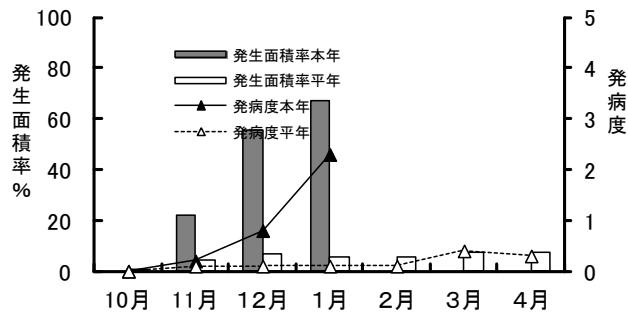
トマト黄化葉巻病の媒介虫であるタバコナジラミの発生は少発生となっており、トマト黄化葉巻病の発生もやや少発生となっています。発病株は感染源になりますので可能な限り除去し、タバコナジラミの発生が見られる場合には低密度のうちに防除しましょう。また、併せて粘着資材等による物理的防除も実施しましょう。

すすかび病 発生量: 多



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

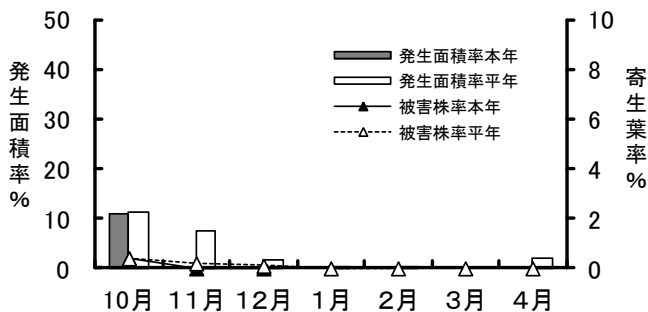
うどんこ病 発生量: 多



トマト(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

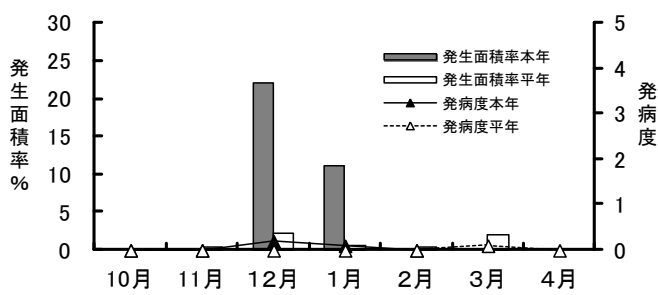
すすかび病、うどんこ病ともに先月に引き続き発生が増加しています。今後の予報では気温が低めなので、加温機の稼働時間が長くなることによる乾燥で、うどんこ病の増加が懸念されるので注意してください。トマトのうどんこ病には2種類あり、現在はいわゆるうどん粉をまぶしたような白粉タイプではなく、葉の表面が黄化し、裏面は紅を帯びた淡褐色となるタイプの病斑が見られています。

ハスモンヨトウ 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるハスモンヨトウの発生推移

疫病 発生量: 多



トマト(促成栽培)における疫病の発生推移

現在はほとんど発生がみられませんが、ハウス内に残っていて効果的な薬剤散布が行われない場合には、春先に増加が見られる場合があるので注意してください。

サイド際の水滴の落ちる場所で、発生の多く見られるハウスがあります。降水量は少なくなる予想ですが、発生に注意して、初期防除を心掛けてください。